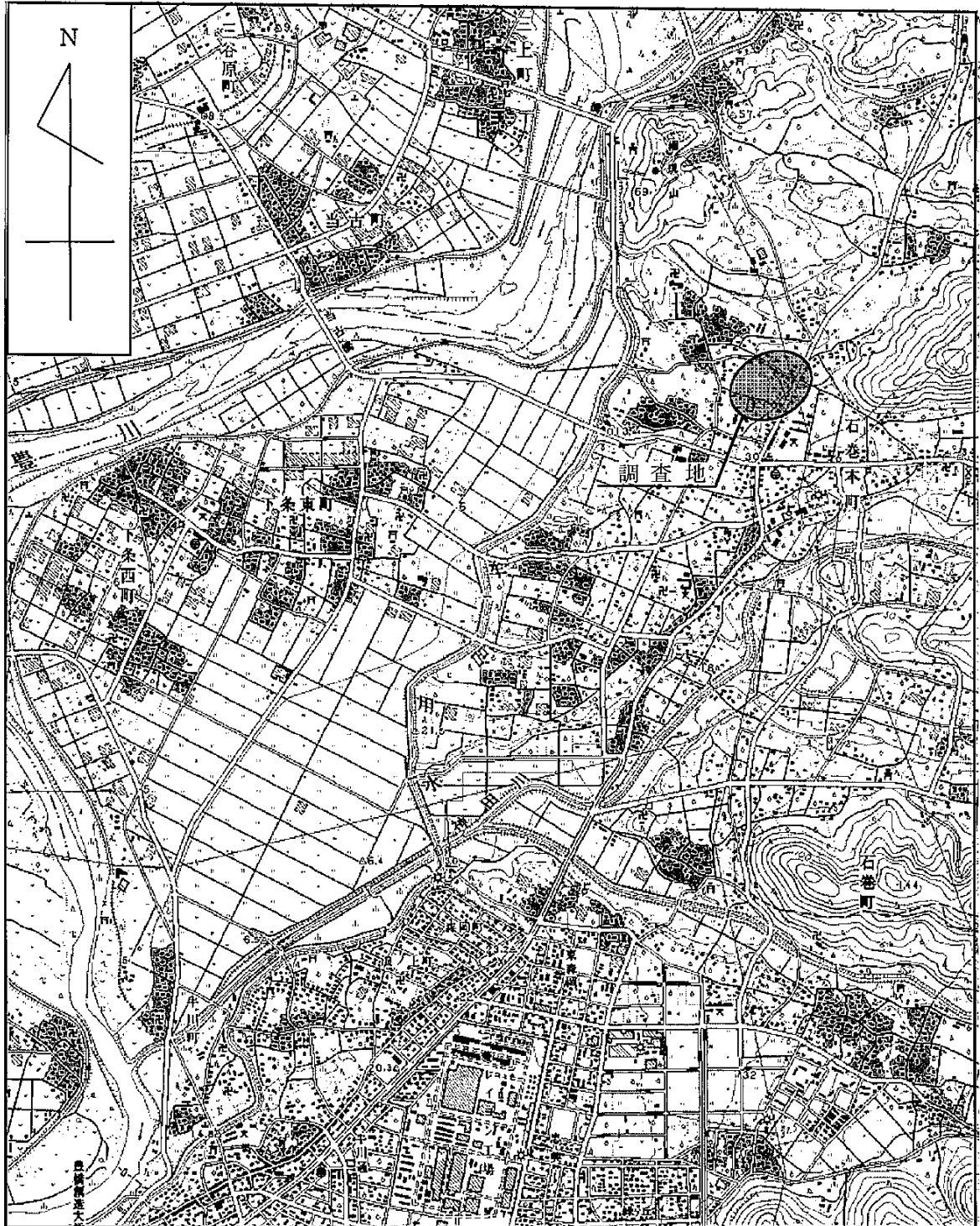


北部調理場

豊橋市石巻本町地内

地質調査報告書

## 調査位置案内図



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「豊橋」を使用して作成したものである。

## 目 次

### 調査位置案内図

1. 調査概要	1
2. 地形・地質概要	3
3. 調査方法	5
3-1 ボーリング調査	5
3-2 標準貫入試験	7
4. 調査結果	8
5. 地盤定数	13

— 卷末資料 —	
調査位置図	
ボーリング柱状図	
地質推定断面図	

## 1. 調査概要

### 〈業 務 名〉

北部調理場測量・調査・実施設計等委託業務

### 〈業務場所〉

豊橋市石巻本町地内

### 〈調査目的〉

本調査は、豊橋市石巻本町地内の北部調理場測量・調査・実施設計等委託業務に伴い、計画地の地盤状況を把握することにより、設計・施工に必要な基礎資料を得ることを目的として実施したものである。

### 〈履行期間〉

平成19年6月19日～平成19年11月30日

### 〈調査内容〉

ボーリング調査	2ヶ所	延べ58m
標準貫入試験		58回

\* 調査数量の詳細を表1-1、表1-2に示す

### 〈発注機関〉

豊 橋 市

### 〈受注者〉

株式会社東三設計

豊橋市多米西町1丁目20番地の9

TEL 0532-63-1255 FAX 0532-63-8075

照査技術者：西尾幸男

管理技術者：中尾典広

表1-1 調査数量表 (ボーリング分)

孔 番		No. 1	No. 2	合 計	
ボ ー リ ン グ	φ 66mm	シルト・粘土	1.55	4.70	6.25
		砂・砂質土	8.35	8.10	16.45
		礫混じり土砂	18.10	17.20	35.30
		玉石混じり土砂			
		軟 岩 I			
		軟 岩 II			
		硬 岩			
計		28.00	30.00	58.00	
標 準 貫 入 試 験	シルト・粘土	1	6	7	
	砂・砂質土	7	7	14	
	礫混じり土砂	20	17	37	
	玉石混じり土砂				
	軟 岩 I				
計		28	30	58	
足 場	平坦地足場	1	1	2	
	傾斜地足場				
	水上足場				

## 2. 地形・地質概要

### 〈 地 形 〉

調査地は、JR東海道本線「豊橋」駅の東方約2.0kmの、豊橋市石巻本町地内に位置する。周辺の地形は、東方の美濃三河高原の南端にあたる山地と、その西側に広がる豊橋平野に大別される。山地は坊ヶ峰をはじめとする標高300～500mの主稜線が南北に延び、静岡県との県境となっている。この主稜線に源を発する豊川の支流や柳生川、梅田川などの中小河川が東から西に向かって山地を下刻・開析しながら流れている。

一方、豊橋平野は豊川沿い～三河湾沿岸に分布する沖積低地と、低位～中位～高位の段丘面で構成される台地に区分される。沖積低地は、この他にも豊川支流や柳生川、梅田川沿いにも小規模であるが帯状に分布する。また、台地は、豊川から南に向かって順次、低位～中位～高位面へと標高を高くし、太平洋に至っては海食崖が形成されて、太平洋へと急激に高度を下げている。

### 〈 地 質 〉

豊橋市周辺は、地質的に西南日本を二分する中央構造線の南側にあたり、山地には三波川帯および秩父帯の構成岩類が分布する。三波川帯は結晶片岩類を主体とし、この他に塩基性～超塩基性岩類および緑色岩類で構成される広域変成帯である。また、秩父帯はチャート、石灰岩等の中・古生界の堆積岩類で構成される。

平野部では、これらの岩盤を基盤としてその上位に完新統（沖積層）～更新統（洪積層）が分布している。完新統は豊川沿い～三河湾沿岸の沖積低地を形成しており、豊川上流部では礫質土を主体とし、下流にしたがって砂質土～粘性土を主体とする。

更新統は、低位～中位～高位段丘面からなる台地を形成している。低位段丘を構成する更新統は、主に豊川本流系の大礫を含む粗粒の堆積物からなる。

中位段丘は、上位面の高師原面と下位面の小坂井面に区分される。高師原面を構成する更新統は高師原礫層とよばれ、豊川本流系の礫の他に、秩父帯構成岩類起源の砂岩の円礫も含まれ、一部は腐り礫となっている。小坂井面を構成する更新統は、小坂井泥層および小坂井礫層とよばれる二層で構成される。小坂井泥層は小坂井面構成層の下半部にあたり、貝化石を含む海成層である。小坂井礫層は小坂井面構成層の上半部にあたり、腐り礫を含まず主に設楽火山岩類の中礫からなる。

高位段丘は天伯原面とよばれ、これを構成する更新統は豊橋累層とよばれ、これはさらに上位から天伯原礫層、杉山砂層、寺沢砂質粘土層、豊南礫層の四層に区分される。天伯原礫層は、淘汰の良い円礫からなる海浜礫層で、表層部は赤色土壌化が著しい。杉山砂層は、基底礫とそれから漸移する細粒で褐色の砂層からなる。寺沢砂質粘土層は、主に青灰色で凝灰質の砂質粘土層からなり、褐色の砂層をともない、一枚の白色の火山灰層を挟在する。豊南礫層は淘汰のやや悪い中～細礫の亜角礫からなり、上方へ褐色の砂層に移化する。

調査地はこのうち小坂井面上に位置し、更新統が分布する地域である。

図2-1に調査地周辺の地質図を示す。



### 3. 調査方法

#### 3-1 ボーリング調査

ボーリング調査は、巻末の調査位置図に示す2地点で行った。ボーリング調査の掘進にはロータリー式のハンドフィード型試錐機を用い、掘削孔径はφ66mmで掘削した。

孔壁保護のため孔口にはケーシングパイプを挿入し、掘削に際しては泥水を用いた。また、掘進時にはロッドに伝わる掘削音、排水色、スライム内容物、逸水、湧水、孔壁の崩壊状況を観察した。使用した機械・資材を表3-1に、ボーリング調査の全体図を図3-1に示す。

表3-1 使用機械・資材一覧表

名 称	メーカー	形式	能 力 そ の 他	数 量
試 錐 機	カノボーリング	KR-50	掘削能力 70m 質量 150kg	1 台
原 動 機	ヤンマー	NFAD7	最大馬力 7.0ps 質量 63.5kg	1 台
試錐ポンプ	カノボーリング	V6-P	排出量 65l/min 質量 105kg	1 台
掘 削 具			ボーリングロッド、コアチューブ メタルクラウン、ケーシングパイプ等	1 式
雑 品			試錐櫓、ドラム缶、ホース、工具類等	
貫入試験			レイモンドサンプラー、ハンマ等	



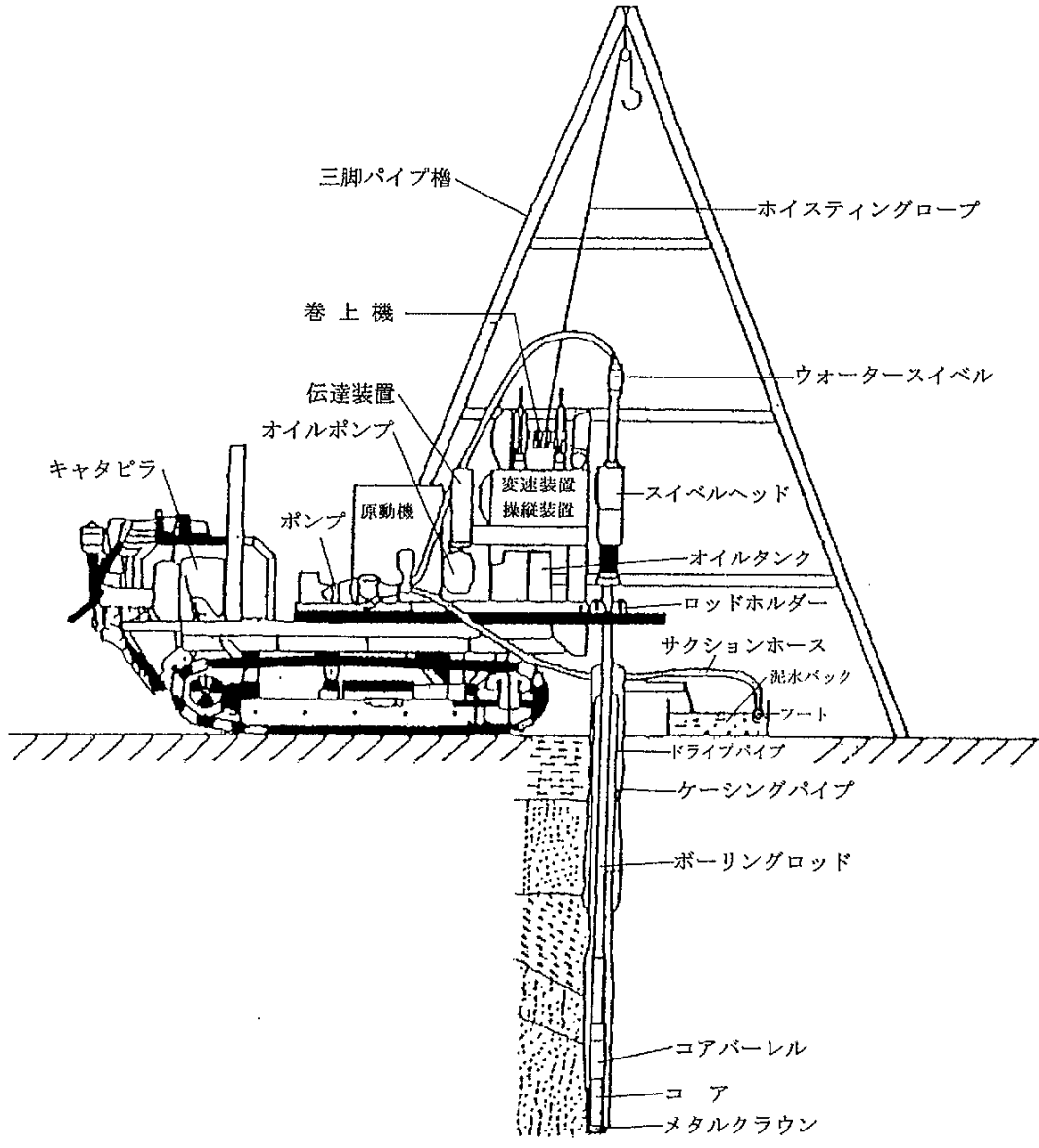


図 3 - 1. ボーリング調査の全体図

### 3-2 標準貫入試験

標準貫入試験はボーリング孔を用いてJIS A 1219に準拠し、1 m毎に実施した。JIS A 1219に示されている試験方法及びその順序は次のとおりである。

- 1) 所定の深度までボーリング孔を掘削する。
- 2) ボーリング孔底のスライムを除去する。
- 3) サンプラーをロッドに接続し、静かに孔底に下ろす。
- 4) ロッド上部にノッキングヘッドとガイド用ロッドを付ける。
- 5) ハンマの打撃によって、15cmの予備打ち、30cmの本打ち（ハンマを正確に75cmの高さから自由落下させる。）、5cmの後打ちを行う。
- 6) 本打ちでは、打撃1回毎の貫入量又は貫入量10cm毎の打撃回数を記録する。本打ちの打撃回数は通常50回を上限とする。
- 7) サンプラーを引き上げ、スプリットバーレルを2つに割り、採取試料を観察する。
- 8) 得られた土質試料は透明な容器に密封して、必要事項を記載したラベルを貼って保管する。

標準貫入試験の模式図を図3-2に示す。

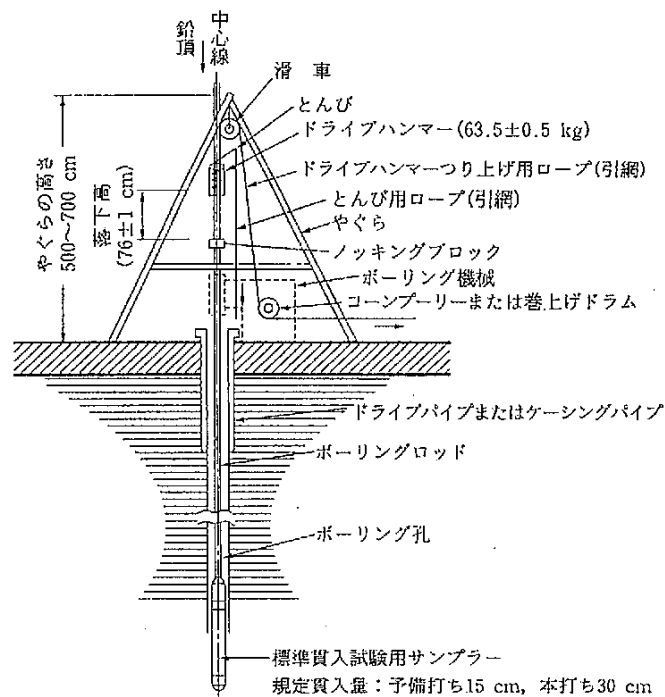


図3-2 標準貫入試験模式図

#### 4. 調査結果

ボーリング調査の結果、調査地においては表層部には農耕土からなる埋土、その下位に更新統（洪積層）が分布していることが確認された。その詳細については巻末のボーリング柱状図に示す。また、各層の分布状況については巻末の地質推定断面図に示し、以下には本調査における各地点毎の地質状況を記す。

表4-1に調査地における地質層序表を示す。

表4-1 調査地の地質層序表

地質年代	地層名	記号	地質状況
現世	埋土	B	農耕土 N値4~24
第四紀	更新世	洪積粘性土層	Dc 粘土~砂質粘土~砂混じりシルト N値6~8
		洪積砂質土層	Ds 細砂主体 N値13~34
		洪積砂礫層	Dg φ5~50mm程度の亜円礫主体 N値13~60以上

ボーリングNo. 1 標高 ; 30.51m 掘進長 ; 28.45m 孔内水位 ; GL-5.15m

○埋土 (B)

分布深度 : GL±0.00m~GL-1.90m

土質 : 礫混じり細砂~砂礫~粘土質細砂~砂質粘土

色調 : 暗茶~黒灰~褐灰色

含水 : 少ない

礫径 : 10~20mm (亜円・亜角礫)

N値 : 4

特徴等 : 礫混じり細砂の部分で径5~20mm程度の亜円礫及び草根を混入する  
砂礫の部分でアスファルト及び碎石を混入する  
粘土質細砂の部分は農耕土 若干の草根を混入する  
砂質粘土の部分で径5mm程度の亜円礫を混入する

○洪積層礫質土 (Dg)

分布深度 : GL-1.90~4.75m, GL-5.85~9.45m, GL-11.00~16.45m, GL-19.05~19.50m,  
GL-20.10~22.65m, GL-25.10~27.80m

土質 : 砂礫・粘土質砂礫・粘土混じり砂礫

色調 : 黄茶~暗黄灰~黄茶灰~淡黄灰~茶褐~暗黄茶色

含水 : 少ない~若干多い

礫径 : 3~50mm (亜円礫)

N値 : 13~45

特徴等 : 全体に最大径60mm程度の礫を混入し、マトリックスは細砂~細中砂よりなる  
若干の粘土分・風化亜角礫及び砂分を多く混入する箇所がある  
粘土混じり砂礫では、まれに径70mm程度の礫を点在する

○洪積層粘性土 (Dc)

分布深度 : GL-4.75~5.85m

土質 : 粘土

色調 : 黄灰色

含水 : 少ない

粘性 : 高い

N値 : 7

特徴等 : 若干径5mm程度の亜円・亜角礫を混入する

○洪積層砂質土 (D s)

分布深度：GL-9.45～11.00m, GL-16.45～19.05m, GL-19.50～20.10m,  
GL-22.65～25.10, GL-27.80m以深

土 質：粘土質細砂・粘土混じり細砂・礫混じり細中砂・細砂

色 調：暗黄褐～暗黄灰～茶褐～茶褐灰色

含 水：少ない～若干多い

粘 性：高い

N 値：11～35

特 徴 等：全体に若干の雲母片を混入する箇所がある 粘土質細砂の全体に粘土分を  
含み、礫混じり細中砂の所々で径2～20mm程度の亜円礫を混入する

ボーリングNo. 2 標高 ; 30.08m 掘進長 ; 30.45m 孔内水位 ; GL-3.30m

○埋土 (B)

分布深度 : GL±0.00m~GL-1.50m

土質 : シルト質微細砂~玉石混じり砂礫

色調 : 暗茶~黒灰~褐灰色

含水 : 少ない

礫径 : 10~40mm (亜円・亜角礫)

N値 : 24

特徴等 : シルト質微細砂の部分は農耕土 草根を混入する  
玉石混じり砂礫の所々で径80~150mm程度の玉石を混入する

○洪積層礫質土 (Dg)

分布深度 : GL-1.50~5.85m, GL-6.25~8.90m, GL-11.80~15.85m, GL-17.75~21.65m,  
GL-24.95~25.80m, GL-29.75m以深

土質 : 砂礫・粘土質砂礫・粘土混じり砂礫

色調 : 黄茶~茶灰~黄茶灰~黄灰~暗黄灰色

含水 : 湿った程度い~若干多い

礫径 : 2~60mm (亜円・亜角礫)

N値 : 15程度~60以上

特徴等 : 最大径70mm程度の礫を混入し、マトリックスは細砂~細中砂よりなる  
砂礫で径100~120mm程度の玉石を点在、砂分を多く混入し、若干の粘土分を含む箇所  
が有る 粘土質砂礫の全体に粘土分を含む  
GL-7.80~7.95m間で砂層を挟在し、GL-19.05~19.30m間で中砂を挟在する

○洪積層粘性土 (Dc)

分布深度 : GL-5.85~6.25m, GL-8.90~11.80m, GL-15.85~17.25m

土質 : 粘土・砂質粘土・砂混じりシルト

色調 : 黄灰~淡黄灰~暗灰色

含水 : 湿った程度~少ない

粘性 : 中位~高い

N値 : 6~8

特徴等 : 砂質粘土の砂は細砂よりなり若干の雲母片を混入する 下部粘土で炭化物及  
び若干の微細砂分を混入する箇所が有る

GL-11.60~11.80m間は粘土質細砂, GL-17.00~17.25m間はシルト質細砂

○洪積層砂質土 (Ds)

分布深度：GL-17.25～17.75m, GL-21.65～24.95m, GL-25.80～29.75m

土質：礫混じり細中砂・細砂

色調：黄茶灰～暗黄灰～茶褐～黄灰色

含水：少ない～若干多い

N値：13～25程度

特徴等：全体に雲母片及び若干の粘土分を含む箇所がある

礫混じり細中砂で径3～15mm程度の亜円礫を混入する

GL-28.65～28.85m間で礫混じり細砂を挟在する

## 5. 地盤定数

調査地に分布する地盤の地盤定数を推定する。地盤定数の推定にあたっては以下に基づいて推定する。

- ・ 単位体積重量 $\gamma$ 及び砂質土のせん断抵抗角 $\phi$   
「道路橋示方書・同解説 IV下部構造編」(社団法人 日本道路協会) (以下「道示」と略す)
- ・ 粘性土の粘着力 $C$   
「地盤調査の方法と解説」(地盤工学会) (以下「調査法」と略す)

以下に「道示」及び「調査法」に示されている推定方法を示す

### 〈単位体積重量 $\gamma$ 〉

「道示」における土質と単位体積重量 $\gamma$ の関係を表5-1に示す。この表を参考に土質及び相対密度から推定する。

表5-1 土の単位体積重量  $\text{kN/m}^3$  ( $\text{t/m}^3$ )

地 盤		ゆるいもの	密なもの
自然地盤	砂及び砂礫	18 (1.8)	20 (2.0)
	砂 質 土	17 (1.7)	19 (1.9)
	粘 性 土	14 (1.4)	18 (1.8)
盛 土	砂及び砂礫	20 (2.0)	
	砂 質 土	19 (1.9)	
	粘 性 土	18 (1.8)	

- (注) (1) 地下水位以下にある土の単位重量は、それぞれ表中の値から $9(0.9)$ を差し引いた値としてよい  
 (2) 碎石は砂利と同じ値とする。また、ずり、岩塊などの場合は種類形状大きさ及び間隙などを考慮して定める必要がある。  
 (3) 砂利混じり砂質土あるいは砂利混じり粘性土にあつては、混合割合及び状態に応じて適当な値を定める。  
 (4) 地下水位は施工後における平均値を考える。

### 〈粘性土の粘着力 $C$ 〉

一般に、粘性土の粘着力 $C$ は、一軸圧縮強度 $q_u$ から次式で求められる。

$$C = q_u / 2$$

「地盤調査法」においては $N$ 値と一軸圧縮強度の関係として次式が示されている。

$$q_u = 12.5N \quad (\text{Terzaghi and Peck})$$

$$q_u = 40 + 5N \quad (\text{大崎})$$

このうち、図5-1に示すように、 $N < 6$ で大崎の式が、 $N \geq 6$ でTerzaghi and Peckの式がそれぞれ実測値のほぼ下限値となっている。したがってここでは、 $N < 6$ で大崎の式を、 $N \geq 6$ でTerzaghi and Peckの式を採用することとし、その $1/2$ をもって粘性土の粘着力 $C$ とする。ただし、安全を考慮して、せん断抵抗角 $\phi$ は $0$ とする。



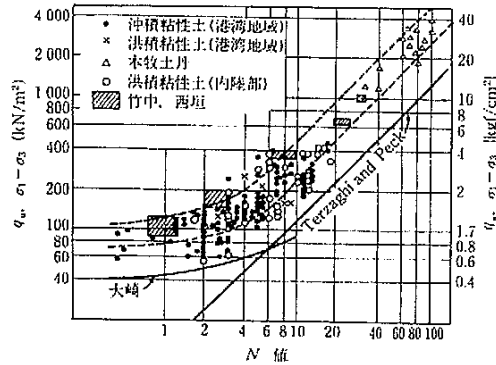


図 5 - 1 quとN値との関係

(砂質土のせん断抵抗角 $\phi$ )

N値より「道示」に示されている以下の推定式を用いて算定する。

$$\phi = 4.8 * \log N1 + 21 \quad (N > 5) \quad (\log \text{は自然対数})$$

$$N1 = \frac{170 * N}{\sigma v' + 70}$$

$$\sigma v' = \gamma t1 * hw + \gamma t2' * (x - hw)$$

ここに、

$\phi$  : 砂のせん断抵抗角 (°)

$\sigma v'$  : 有効上載圧 (kN/m<sup>2</sup>) で標準貫入試験を実施した時点の値

N1 : 有効上載圧 100 kN/m<sup>2</sup> 相当に換算した N 値。ただし、原位置の  $\sigma v'$  が  $\sigma v' < 50 \text{ kN/m}^2$  である場合には、 $\sigma v' = 50 \text{ kN/m}^2$  として算出する。

N : 標準貫入試験から得られる N 値

$\gamma t1$  : 地下水位面より浅い位置での土の単位体積重量 (kN/m<sup>3</sup>)

$\gamma t2'$  : 地下水位面より深い位置での土の単位体積重量 (kN/m<sup>3</sup>)

x : 地表面からの深さ (m)

hw : 地下水位の深さ (m)

ただし、安全を考慮して粘着力 C は 0 とする。

以上により推定した各ボーリング地点毎の土質定数を表 5 - 2 ~ 表 5 - 3 に示す。

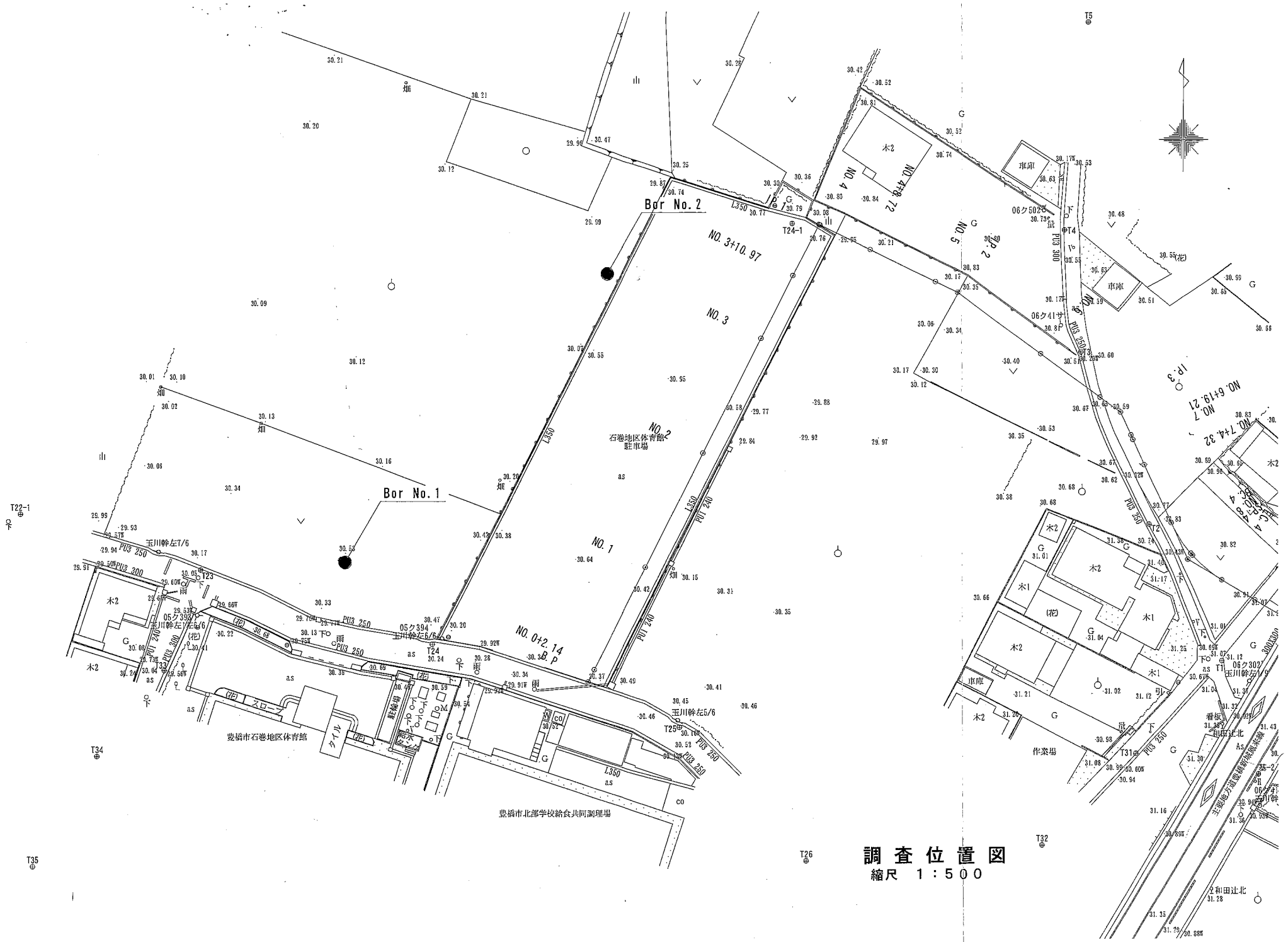
なお、推定にあたっては原則として平均 N 値を採用する。また、せん断抵抗角算出に際しての有効上載圧は、各層の中心における値とする。

表5-2 地盤定数一覧表(No. 1)

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	地層 記号	採用 N 値	単位体積重量 $\gamma_t$ (kN/m <sup>3</sup> )	粘着力 C (kN/m <sup>2</sup> )	せん断抵抗角 $\phi$ (°)
28.61	1.90	1.90	B	4	17		
26.71	1.90	3.80	Dg	43	20		
25.76	0.95	4.75	Dg	13	19		
24.66	1.10	5.85	Dc	7	16		
21.06	3.60	9.45	Dg	17	19		
19.51	1.55	11.00	Ds	11	18		
14.06	5.45	16.45	Dg	31	20		
10.41	3.65	20.10	Ds	21	18		
7.86	2.55	22.65	Dg	24	19		
5.41	2.45	25.10	Ds	15	18		
2.71	2.70	27.80	Dg	34	20		
2.06	0.65	28.45	Ds	34	19		

表5-3 地盤定数一覧表(No. 2)

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	地層記号	採用N値	単位体積重量	粘着力	せん断抵抗角 $\phi$ (°)
					$\gamma_t$ (kN/m <sup>3</sup> )	C (kN/m <sup>2</sup> )	
28.58	1.50	1.50	B	24	19		
26.43	2.15	3.65	Dg	40	20		
21.18	5.25	8.90	Dg	18	19		
18.28	2.90	11.80	Dc	7	16		
14.23	4.05	15.85	Dg	27	19		
12.83	1.40	17.25	Dc	6	16		
8.43	4.40	21.65	Dg	24	19		
5.13	3.30	24.95	Ds	16	18		
4.28	0.85	25.80	Dg	41	20		
0.33	3.95	29.75	Ds	21	18		
-0.37	0.70	30.45	Dg	45	20		



調査位置図  
縮尺 1 : 500

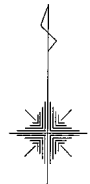
T22-1

T35

T26

T32

T5



和田辻北  
31.28

# ボーリング柱状図

委託業務名 北部調理場測量・調査・実施設計等委託業務

ボーリングNo

路線等の名称

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	愛知県豊橋市石巻本町地内			北緯	34° 48' 28.2"		
発注機関	豊橋市			調査期間	平成 19年 8月 20日 ~ 19年 8月 21日		東経	137° 26' 23.9"		
調査業者名	株式会社 東三設計 電話 (0532-63-1255)		照査者	西尾幸男	管技術者	中尾典広	コ鑑定者	朝倉秀人	ボーリング責任者	朝倉秀人
孔口標高	H=30.51m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配	水平 0°		
総掘進長	28.45m	使用機種	YBM-05		ハンマー	落下用具		コーンブーリー		
		エンジン	NF80-EK		ポンプ	V-6				





標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対稠密度	相対密度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	採取番号	採取方法	室内試験	掘進月日
									深さ (m)	打撃回数	貫入量 (cm)	値						
28.61	1.90	1.90	埋土	暗茶・黒灰・褐灰	密な	中位	中位	全体に含水少ない GL-0.35mまで微細じり細砂 径5~20mm程度の珪門礫混入 草根混入 GL-0.35mまで砂礫 径10~20mm程度の珪門礫主体 アスファルト及び珪門礫混入 GL-1.45mまで粘土質細砂 炭屑土、若干珪門礫混入 以深、砂質粘土 径5mm程度の珪門礫混入	1.15	1	2	4	4					
26.71	1.90	3.80							2.15	12	20	13						
25.76	0.95	4.75	粘土質砂礫	黄茶	中位	中位	中位	含水少ない~若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径60mm程度の礫混入 マトリックスは細中砂 若干珪門礫混入	3.15	12	12	17	41	13				
24.66	1.10	5.85							4.15	4	4	5	13					
			粘土質砂礫	黄茶・暗黄灰・黄茶灰	中位	中位	中位	含水少ない~若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	5.15	2	2	3	7	7				
									5.45	4	5	7	17					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	6.15	5	6	6	17	17				
									7.15	5	6	6	17					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	8.15	6	7	7	20	20				
									9.15	3	6	6	15					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	9.45	3	4	4	11	11				
									10.15	3	4	4	11					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	10.45	8	12	15	35	35				
									11.15	8	12	15	35					
			砂礫	黄茶・暗黄灰・黄茶	密な・中位	中位	中位	含水少ない~若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径60mm程度の礫混入 全体に若干珪門礫混入 所々砂分多く混入 GL-16.10m付近より 径2~20mm程度の珪門礫主体となる	11.45	9	11	14	34	34				
									12.45	9	12	16	37					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	13.45	8	10	11	29	29				
									14.45	6	9	9	24					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	15.15	7	10	10	27	27				
									16.15	7	10	10	27					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	16.40	3	6	7	16	16				
									17.45	4	6	9	19					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	18.15	10	9	10	29	29				
									19.15	10	9	10	29					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	19.45	4	6	10	20	20				
									20.15	4	6	10	20					
			粘土質砂礫	暗黄灰・茶褐	中位・密な	中位	中位	含水少ない~若干多い 径5~30mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 若干粘土分含む箇所あり GL-21.90~22.10m間で砂を挟む	20.45	5	6	9	20	20				
									21.45	8	12	12	32					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	22.45	3	4	8	15	15				
									23.45	4	4	7	15					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	24.15	8	11	13	32	32				
									25.15	9	13	13	35					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	26.45	10	10	15	35	35				
									27.15	10	10	14	34					
			粘土質砂礫	暗黄灰	中位	中位	中位	含水若干多い 径5~40mm程度の珪門礫主体 最大径40mm程度の礫混入 マトリックスは細砂 まれに径70mm程度の礫点在 所々砂分多く混入する箇所あり	27.45	10	10	14	34	34				
									28.45	10	10	14	34					



# 地質推定断面図

縮尺 1:200

凡 例

-  B 埋 土
-  Dg 洪積砂礫層
-  Dc 洪積粘性土層
-  Ds 洪積砂質土層

